



＜果樹カメムシ類の発生に注意！＞

今後、チャバネアオカメムシ成虫の多くが果樹園に飛来すると考えられるため注意が必要です。

○ほ場内外を見回り、発生を認めたら直ちに防除を行いましょう。

○カメムシ類に適用のある農薬を使用し防除を行いましょう。(収穫前日数に注意しましょう。)

柑橘類：スタークル顆粒水溶剤 2000倍 収穫前日 3回以内 又は

ロディー乳剤 (劇) 2000倍 収穫7日前 4回以内

キウイ：スタークル顆粒水溶剤 1000倍～2000倍 収穫前日 3回以内

ナ シ：スタークル顆粒水溶剤 2000倍 収穫前日 3回以内

アクタラ顆粒水溶剤 2000倍 収穫前日 3回以内

【温州みかん】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

この時期の病害虫防除は、収穫時の外観・品質へ大きく影響します。必ず実施しましょう。

病害虫防除 8月下旬 ～ 9月上旬

○黒点病 パンコゼブ水和剤またはジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100㍓
収穫30日前 4回 * 極早生に散布する際は、収穫日に気をつけてください。

○ミカンハダニ ダブルフェースフロアブル 3,000倍 収穫前日 1回 33ml/水100㍓
ミカンサビダニ 又は
ダニゲッターフロアブル 2,000倍 収穫前日 1回 50ml/水100㍓

○チャノキイロアザ スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100㍓ 収穫前日 3回
ミウマ・カメムシ類 又は ロディー乳剤(劇) 2,000倍 50ml/水100㍓ 収穫7日前 4回
ヤノネカイガラムシ

浮皮軽減 8月下旬 ～ 10月中旬まで

セルバイン 300倍を20～30日間隔で2～3回散布 333g/水100㍓

【中晩柑】

病害虫防除 基本防除はみかんの項参照

* 中晩柑の防除における農薬の使用日数には十分に注意しましょう。

例) ジマンダイセン水和剤 収穫90日前 12月上旬収穫のものには散布できません。

○かいよう病 コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍓
ICボルドー412 50倍 2kg/水100㍓

※強風や降雨を伴う台風の前はコサイド3000(クレフノン200倍加用)又はICボルドー412を散布しましょう。

施肥 中晩柑は秋季も窒素成分を切らさないようにしましょう。

初秋肥 9月中旬 特選みかん配合655 140kg/10a (後期肥大促進・樹勢維持のため)

* 10月下旬にもう1度施肥を行います。 特選みかん配合655 100kg/10a

【湘南ゴールド】

秋口の摘果では肥大促進効果は低いので、病害虫の被害が著しい果実と極小果を中心に仕上げシンニング(摘果)を行いましょう。裾枝・下垂枝の持ち上げ摘果で2S以下を無くしましょう。

仕上げシンニング (摘果)	9月20日	3.9cm～5.4cm	このサイズを残し、 外観を中心に仕上げ摘果
	11月20日	4.8cm～6.5cm	

仕上げ摘果・枝吊り

10月以降果実の肥大は緩慢となりますので、その前に小玉果、傷果を摘果し、果実の大きさをそろえましょう。果実の重量で枝が折れたり、裂けやすくなるので、重たくなる前に、枝吊り、枝支えを必ず行いましょう。

施肥 中晩柑の項参照

——【キウイフルーツ】——

病虫害防除 9月上旬 ○果実軟腐病 ロブール水和剤 1,500倍 66g/水100ℓ 収穫前日4回
※ スプラサイド水和剤の散布は、収穫60日前までの為散布できません。

施肥 9月中旬と10月中旬に分肥 キウイ配合 100kg/10a
後期肥大は、年間肥大の20%程度あります。肥料の分肥は9月中旬に60%、樹勢回復には10月中旬に40%の2回に分けて行う事で効果が上がります。

——【水 稲】——

水稻の生育状況 令和4年産水稻の生育状況は、草丈は平年と同等～やや長く茎数はやや多い傾向です。出穂期は平年並みの状況です。今後の気温は高い予報となっていますので、水管理で稲への負担を軽減しましょう。

水管理 出穂後35日(収穫7日前頃)を目安に落水を行いましょう。(土壌条件にもよります)
落水が早いと登熟が悪くなります。登熟不良や胴割れを防ぐために、完全落水は収穫作業に差し支えない範囲で出来るだけ遅らせましょう。

高温時対策 気温が高くなると品質の低下が起こりやすくなります。その対策として出穂期、登熟期の間断かん水、かけ流し、夜間入水を行いましょう。(特に、夜温が高い日はできる限り夜間入水して、水温を下げ、稲の呼吸による消耗を防ぎましょう)

収 穫 収穫適期は、穂に青籾がキヌヒカリ・はるみ・てんこもりでは15%。さとじまんでは10%残っている時期です。

平年の収穫目安 5月25日田植えの場合

キヌヒカリ・はるみ 9月14日頃 てんこもり 9月20日頃 さとじまん 9月25日頃

乾 燥 収穫した籾は、ムレを防ぐため4時間以内に乾燥機に入れましょう。
コンバインで収穫した籾を急激に乾燥させると胴割れし易くなるので、風乾燥を4～5時間行い水分が20%前後になってから火力乾燥(40℃を越えない)し、玄米水分含量を14.5%～15%に調整ましょう。
(循環式乾燥機をお持ちの方は、取扱い説明書に従い作業を行いましょう。)

機械の取扱い 農作業の安全と品質の確保のため、機械は使用前に取扱説明書を読み、機械の性能にあわせて無理せず作業ましょう。

——【う め】——

夏季剪定 9月中旬頃までに、縮間伐・立ち枝の間引きを実施ましょう。
樹の内部に光を入れることで、花芽分化の促進をします。また、夏季剪定の際に残す枝の葉を落とすと翌年の花芽分化に悪影響をします。注意ましょう。

※灰星病発生園での剪定について

- ・結果枝(実のなる枝)に症状がある場合は、切り落とします。
- ・被害が多い場合は、側枝単位で切り落とします。
- ・樹全体に症状が広がっている場合は、健全な枝(緑枝など)を残し切り落とします。

剪定枝は発生源になるので、必ず園外廃棄ましょう。

——【お 茶】——

施肥 **秋肥 9月中旬** 秋肥は、貯蔵養分として来年の一番茶に利用されます。光合成が活発化する10月～11月に貯蔵養分として吸収され、越冬芽の充実度に反映し、来年の収穫量を左右します。2回に分肥し、1回目と2回目の施肥の間隔は20日程度を目安とします。

1回目 8月下旬 足柄茶配合O33 80kg/10a
2回目 9月中旬 足柄茶配合O33 80kg/10a 病虫害防除の徹底をお願いします。

病虫害防除 8月中旬～9月上旬 病虫害防除の徹底をお願いします。
○チャハマキ ファルコンフロアブル 4,000倍 25ml/水100ℓ 摘採7日前 2回
チャノコカクモンハマキ